

私立大学研究ブランディング事業 成果報告書

学校法人番号	301001	学校法人名	高野山学園		
大学名	高野山大学				
事業名	「高野山アーカイブ」の構築と世界遺産高野山の生成・発展・継承に関する密教学的研究				
申請タイプ	タイプA	支援期間	5年	収容定員	200人
参画組織	高野山大学(文学部・大学院文学研究科・高野山大学図書館・密教文化研究所)				
事業概要	<p>高野山大学は創立130周年の伝統を有する密教の最高学府である。図書館、密教文化研究所では、多くの密教に関する貴重書が保管されており、世界に数少ない密教の教育・研究機関と言える。本学の過去の歴史的資料や、高野山文化圏に関わる多くの資料をアーカイブ化し、連綿と続く1200年の密教の遺産を次世代へ繋いでいくことは、大きな価値を有すると考えられる。</p>				
事業目的	<p>本事業の目的は、高野山大学に蓄積されてきた歴史的資料(聖教類・古絵図など)をデジタル化し、それらを「高野山アーカイブ」として広く公開・発信することで、高野山に関する密教学的研究の深化・促進を図ることにある。</p> <p>本学は、本年創立130周年を迎えるが、弘法大師空海は、816年にあらゆる人々の修行・研鑽の場として高野山を開創し、フランシスコ＝ザビエルが本国に宛てた書簡に、都にある大学の他に五つの主要な大学の筆頭として「高野」を挙げている。高野山は密教の根本道場としての役割だけでなく、教育機関として1200年の伝統を有しているのである。また、1898年に創設された本学図書館は、高野山全山の図書館としての性格を有し、仏教や密教に関する資料は国内有数の蔵書数を誇り、その合計は30万冊に及ぶ。その3分の1にあたる10万冊は、中・近世の古典籍で、国指定重要文化財3点をはじめ、多くの古写本や版本を含み、仏教・密教の研究のみならず、国文学・国語学・歴史学など、国内外の研究者から注目を集めてきた。それらの蔵書は、日本文化の礎を築いた弘法大師空海の伝統を継承する本学の特色を示すとともに、貴重な文化財としての価値を有している。さらに、本学には、1943年に発足した密教文化研究所がある。「定本弘法大師全集」をはじめ、仏教や真言密教の研究成果を出版物として刊行してきたほか、インド・チベットなどの研究機関等との連携にもとづく調査成果など、真言密教の研究拠点として、その実績は国内だけでなく海外にも知名度を誇っている。</p> <p>しかしながら、本学に蓄積されてきた歴史的資料は、これまで出版物やDVDとして公開されてきたが、十分なアーカイブ化がなされず、したがって、誰でもがアクセスし、それを活用する状況にないのが現状である。本事業は、こうした現状を大きく刷新し、1200年の伝統の下に蓄積されてきた貴重な歴史的資料にアクセスすることを容易にしていく。このことは高野山に関する密教学的研究の深化・促進に繋がっていく。密教の新たな価値を生成するツールとして位置づけられることになる。</p> <p>また、本事業は、研究者だけでなく、地域の再発見をもたらすツールとしても活用できる。1200年間にわたって継承されてきた歴史・文化を中心とした高野町の活性化を目指す。本事業は、密教というブランド力を受け継いできた本学だからこそ実現できる独自の事業であり、「心の癒し・目覚め」を求める時代にあって、本学が蓄積してきたブランド力や伝統にもとづいて地域や社会に貢献できると確信する。ひいては埋没しがちな日本の精神文化に新たな光を照らすツールとしてのアーカイブを目指すものである。</p>				

学校法人番号	301001	学校法人名	高野山学園
大学名	高野山大学		
事業名	「高野山アーカイブ」の構築と世界遺産高野山の生成・発展・継承に関する密教学的的研究		
事業成果	<p>本事業は、弘法大師空海による真言密教の根本道場として開創されて以来、1200年の伝統を受け継ぎ、創立130年を経て、密教の最高学府として、日本のみならず世界の密教研究をリードし、本学が有する数多くの貴重な「密教遺産」の蓄積と、世界遺産として世界中の人々を魅了する高野山に立地することを本学の最大の特色と位置づけ、「密教の新たな価値を生成するツール」と「地域の再発見をもたらすツール」を広く社会に提供することによって、本学のブランド力を高めることを目的として推進された。</p> <p>上記の目的を達するため、「高野山アーカイブ」と「古絵図サイト」を構築することを本事業の主眼として調査・研究を進め、その成果をホームページ(http://www.koyasan-u.ac.jp/koyasan_archives/)を通じて、インターネットによって発信してきた。</p> <p>「高野山アーカイブ」の構築 https://archives.koyasan-u.ac.jp/</p> <p>本事業の目的のうち、「密教の新たな価値を生成するツール」として位置づけられる。本学図書館に蓄積されてきた「密教遺産」をデジタル化し、公開するという本学創立以来の初の試みとして推進された。本事業では、30万冊に及ぶ本学図書館の蔵書から、本学の最大のブランドといえる弘法大師空海と高野山に関連するものを中心に、古写本や近世初期の版本を始めとした未公開資料や古写真をデジタル化し、「弘法大師空海の著作」「高野山の歴史と信仰」「真言密教の世界」「高野山大学の密教研究」の4つのカテゴリーに区分して公開している。単なるデータベースとしてのみならず、検索機能についても充実させ、研究者に限らず、広く一般の人々の利用に便宜を図り、特色あるアーカイブとすることに努めた。本格的な公開は、三年目からとなったが、その間、これまでにないアーカイブとするために種々の議論を重ね、1200年間にわたって蓄積された歴史資料をアーカイブ化することについての方途を模索し、新たなノウハウを見出すことができた。</p> <p>本事業におけるアーカイブの中心に位置づけられる「定本弘法大師全集」収載の著作の公開については、当初は五年計画で推進されたが、四か年間でそのほぼすべてを公開することができ、初期の目標を達成した。また、本学図書館が所蔵する古写本や版本にとどまらず、高野山内の塔頭寺院所蔵の寄託本もあわせて公開することが可能となった。本事業への山内寺院の賛同と協力によるものであり、「高野山アーカイブ」の構築を通じて、本学のブランド力が高まってきたことを示している。</p> <p>アクセス数においても、公開以降、1カ月あたり500件から700件で推移しており、海外の研究者からも評価を得ている。</p> <p>「高野山アーカイブ」の構築は、真言密教の研究に新たな研究ツールを提供する契機となったのみならず、諸資料のデジタル化を通じて、将来に貴重な資料を継承するという点においても、密教学研究の深化・促進に益する役割を果たしたといえる。</p> <p>地図サイト「古絵図であるく高野山」の構築 https://m.stroly.com/koyasan/i#1544497603</p> <p>本事業の目的のうち、「地域の再発見をもたらすツール」として位置づけられる。本学図書館に所蔵される高野山の古絵図をデジタル化し、世界遺産である高野山の景観変遷をたどることができるとともに、GPS機能と連動させることにより、高野山への参拝・観光の新たなツールを提供することを目指している。</p> <p>古絵図は、江戸時代後期・明治25年(1892)・大正11年(1922)の三種類にアクセスでき、ほぼ30年ごとの景観変遷をビジュアルにたどることができるとともに、現在の地図とも連動していることから、現在との対比も可能となっている。また、高野山内の主要なスポット50ヶ所について、江戸時代の地誌にもとづく案内文を付した。案内文は、日本語だけでなく、英語版・中国語版(簡体字)があり、国際観光都市である高野山の特性を活かしている。古絵図・現在の地図ともにGPS機能との連動により、実際の高野山めぐりに活用できるものであり、サイトにアクセスすることにより、自宅にいながらでも高野山めぐりを楽しむことができる。</p> <p>高野山に関する観光マップや高野町が運営するアプリは存在するが、いずれも現在の地図をもとにしたものであり、古絵図をもとにした本サイトは、新たな高野山観光のコンテンツとして画期的な試みである。制作年代の異なる三種類の絵図によって、それぞれの時代ごとの変化を知るだけでなく、現在との比較によりタイムスリップのような感覚を体験でき、高野参詣が盛んであった江戸時代後期から世界遺産である現代に至る高野山の景観変遷をビジュアルにたどれ、変化の様子を知ること、新たな高野山の魅力を発見する可能性につながるという点にこれまでとは異なる特色がある。</p>		

	<p>地図サイトの制作にあたっては、時代の異なる絵図上に50ヶ所のスポットの位置を定めることが困難であった。これは当初予想していたよりも山内の変化が著しいことによるもので、制作する上での調査・研究により明らかになったことである。利用者が混乱しないように、現在の位置を基準にしたが、その成果は、案内文によって反映することになっている。</p> <p>観光資源として古地図を活用する試みは、近年、多くの取り組みが行われているが、文献資料にもとづく人文的知見をもあわせて、地域の歴史的背景をコンテンツ化した本事業での試みは、将来に向けた地域活性化の方途を示す可能性を孕むだけでなく、国際観光都市としての高野山に新たなツールを提供したといえる。</p> <p>本事業を推進するにあたっては、PDCAサイクルにもとづき、学内での議論と検証を行い、年度毎の内部評価と外部評価を経て推進され、年度毎の進捗状況はホームページで公開されている。経費の活用についても、学内の厳格なチェック体制のもとで運営されてきた。四か年を通じて委託費の占める割合が高くなっているが、本事業においては、これまでにないアーカイブや地図サイトによる発信を目指したために、その開発や維持を専門業者に委託せざるを得なかったためである。しかしながら、歴史資料のデジタル化などの実際の作業にあたっては、本学の学部生や大学院生が担い、その成果を卒業論文などに反映する者もあり、そうした意味においては、若手研究者や高度情報専門分野の人材養成に寄与したといえる。</p> <p>また、本事業は、高野町や高野山霊宝館との連携のもと進められたほか、和歌山県伊都振興局・和歌山県世界遺産センター・高野七口再生保存会といった官民双方の機関・団体と新たな連携関係を構築して推進され、本事業の成果はこれらの連携機関を通じて発信されている。</p> <p>以上、本事業においては、本学が培ってきたブランド力を活用し、事業計画書での所期の目標をほぼ達成し、これまでにない新たな試みとしてそれ自体が大きな成果であり、本学の新たなブランド力発信の契機となったと確信する。</p>
<p>今後の事業成果の活用・展開</p>	<p>第一に、「高野山アーカイブ」および「地図サイト」のさらなる充実化がある。本事業では、前者においては、弘法大師空海の著作を主眼として推進されてきたが、今後は、本学図書館が所蔵する他の貴重な歴史資料についてもデジタル化を図り公開していく。機能面についても、辞書機能などの課題として残されている点を追加し、さらなる充実化を図りたい。後者にあつては、本事業では、高野山内を対象としたが、世界遺産としての高野山の魅力は、その参詣道を含みこんでいる。今後は、「高野七口」といわれる参詣道を対象として、地図サイトの範囲を広げるとともに、案内文を付した山内スポットの数を増やしていくことで、さらなる高野山の魅力を発信するサイトとして寄与することを目指す。</p> <p>第二に、連携機関とのさらなる関係の強化と、新たな連携関係の構築がある。本事業では、本学に蓄積された歴史資料の公開を目的としたが、令和2年度より高野山内の塔頭寺院調査が開始される予定である。こうした連携を通じて、高野山全体の貴重な歴史資料の調査・研究とデジタル化によって、将来にわたる保存に寄与することを目指す。</p> <p>第三には、海外研究機関との連携である。真言密教に関する資料は、国内のみならず海外にも所蔵されるが、現在、本事業を推進したメンバーを中心としてアメリカ合衆国のシアトル大学有志と、キリスト教宣教師の記録にみられる中世の真言密教に関する共同研究が開始されている。本研究は、真言密教とキリスト教というこれまでにない視点を持ち、新たな成果を得ることが期待され、これらの成果をもとに、密教研究の世界的な拠点となることを目指したい。これらの成果を、「高野山アーカイブ」での公開と、本事業で構築された連携体制をもとに発信することで、本事業を継続し、本学のブランド力を高めることを目指す。</p>